

《キーワード》 セメント質、歯根膜、歯槽骨、改造、再生、形態学

《担当者名》 入江 一元

【概要】

今日の歯科治療には、歯の喪失による咀嚼機能の低下を回復する治療法としてインプラントや歯の移植などの選択肢もある。これらの治療法においては、顎骨に埋入した金属、セラミック又は移植歯の周囲に骨や歯周組織の再生を期待する。今後、これらの治療においてより安全で確実な術式、治療期間の短縮など患者のQOLを高めるための改善をするには骨や歯周組織の基礎、すなわち、顎骨や歯槽骨の改造現象、歯根膜やセメント質の再生機序を理解することが重要となる。

そこで、本科目では形態学的手法を用いて骨や歯根膜の改造現象、歯周組織の再生、再建過程を検索することにより、形態学的手法を身に付けるとともに研究結果と既知の事項から歯周組織の改造、再生過程に関する基礎的概念を構築することを目標にする。

【学修目標】

1. 歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨）を構成する細胞外基質とその産生、分解を担う細胞、その改造現象について概説できる。
2. 動物実験の際の動物の取扱い（麻酔、安楽死に関わる手技）を正しく行うことができる。
3. パラフィン切片、凍結切片、電子顕微鏡用切片の作製方法を概説し、実際に作製することができる。
4. 各種染色法と免疫組織化学を概説し、染色することができる。
5. 光学顕微鏡、電子顕微鏡を使用することができる。
6. 得られた結果を客観的に評価できる。
7. 得られた結果の意義を論理的に説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	歯根膜、セメント質の特徴とその再生		入江 一元
2	歯槽骨の改造現象		入江 一元
3	動物実験の立案とその手技（麻酔と灌流固定の実際）		入江 一元
4	パラフィン切片、凍結切片、電子顕微鏡用切片の作製の実際（脱灰、包埋、薄切）		入江 一元
5	各種染色法と免疫組織化学の実際		入江 一元
6	光学顕微鏡、電子顕微鏡による観察法の実際		入江 一元
7	既報との客観的比較に基づいた得られた結果の解釈の仕方		入江 一元
8	学会発表と論文発表に向けたまとめ		入江 一元

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

事前配付する染色手技法の理論について学習しておくこと。